

## 県内復興・経済日誌 (2020年4月)

1日

### 《東北初の水素バス、いわき市内で運行開始》

新常磐交通（いわき市）が、水素で走る燃料電池バス（FCバス）の運行を始めた。東北地方でのFCバス運行は初めてで、環境に配慮した車両を活用し次世代の公共交通の展開につなげる。水素は、同市鹿島町に整備された商用定置式の水素供給施設「いわき鹿島水素ステーション」で調達する。

2日

### 《2019年度倒産件数81件》

帝国データバンク福島支店が発表した2019年度の県内企業倒産集計（負債1,000万円以上）によると、倒産件数は81件（前年度比5件増）、負債総額は163億6,900万円（同2億1,600万円増）だった。

8日

### 《請戸卸売市場、9年ぶりに再開》

東日本大震災の被害で休止していた請戸地方卸売市場（浪江町）が約9年ぶりに再開し、競りが行われた。請戸港で水揚げした魚はこれまで相馬市の市場まで運んでいたが、今後は時間やコストを削減でき、水産業の活性化が期待される。

### 《3月県金融経済概況、景気「回復」5年ぶり削除》

日本銀行福島支店は3月の県金融経済概況を発表し、新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、県内景気の総括判断を5カ月ぶりに引き下げた。また、5年1カ月ぶりに「回復」の表現も削除した。

13日

### 《大熊町、震災後初の福祉施設開所》

大熊町大川原地区に認知症高齢者グループホーム「おおくまもみの木苑」が開所した。同町内で福祉施設が開所するのは、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故発生後初めてとなる。

15日

### 《「ふくしまプライド便」2019年度販売額、過去最高更新》

県の発表によると、本県産品販売企画「ふく

しまプライド便」の2019年度売上額は26億2,652万4,545円で前年度より約4億円増え、過去最高額を更新した。2017年度に始まった同企画は年々、売上額が上昇している。

20日

### 《9分野の施設に休業要請》

政府が新型コロナウイルス対応の特別措置法による緊急事態宣言の対象区域を全国に広げたことを受け、内堀知事は県内の9分野の施設に休業を要請した。期間は4月21日から5月6日で、要請に応じた事業者に最大30万円の協力金を支給する方針を示した。

23日

### 《海外ビジネス関係企業、7割超マイナス影響》

日本貿易振興機構（ジェトロ）福島貿易情報センターは、新型コロナウイルス感染拡大の影響について県内の海外ビジネス関係企業を対象にしたアンケート結果を発表した。回答企業の70%強が、過去1カ月の間にマイナスの影響を受けているとした。

27日

### 《県内経済情勢2月判断、9年ぶり下方修正》

財務省東北財務局福島財務事務所が県内経済情勢の2月判断を発表し、「新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制される中、足元で大きく下押しされ厳しい状況にある」として、総括判断を下方修正した。下方修正は2011年6月判断以来、36期ぶりとなる。

28日

### 《葛尾村初の地酒「でれすけ」発売》

一般社団法人葛<sup>かつりよ</sup>力創造舎（葛尾村）は、東日本大震災で浪江町から山形県長井市に拠点を移している鈴木酒造店とタッグを組み、同村産米を使った日本酒「でれすけ」を完成させた。同村産米を使った日本酒の生産は初めてで、村内の商店で販売が始まった。

「主要経済指標」は、弊所ホームページに掲載しております。

掲載箇所：<http://fkeizai.in.arena.ne.jp/kikanshi/shihyou>

